

音楽科学習指導案

令和4年10月 第1学年 指導者 羽鳥 文仁

1 題材名 曲想やパートの役割を生かして音楽表現を工夫しよう

教材名 「COSMOS」 (ミマス 作詞・作曲/富澤裕 編曲)

2 題材観 (省略)

3 生徒の実態及び指導方針 (省略)

4 研究との関わり (省略)

5 題材の目標

- (1) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付ける。(知識及び技能)
- (2) 強弱、テクスチャ、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、歌唱表現を創意工夫する。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 強弱、テクスチャ、構成が生み出す曲想に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組むとともに三部合唱の響きに親しむ。(学びに向かう力、人間性等)

6 題材の評価規準

- (1) 知識・技能
 - ① 曲想と音楽の構造や歌詞との関わりについて理解している。
 - ② 創意工夫を生かした音楽表現をするために、全体の響きや各声部の声を聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付け、歌唱で表している。
- (2) 思考・判断・表現
 - ① 強弱、テクスチャ、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。
- (3) 主体的に学習に取り組む態度
 - ① 強弱、テクスチャ、構成が生み出す曲想に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

7 指導と評価の計画（全8時間）

過程	時間		知	思	態	◇評価項目<方法（観点）> 〔記〕：記録に残す評価
つかむ	1	<p>●ねらい</p> <p>○学習活動 ☆ ICT活用</p> <p>●曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、題材の課題をつかむことができるようにする。</p>				
		<p>[題材の学習課題（題材を貫く問い）]</p> <p>曲想やパートの役割を生かして歌唱表現を工夫しよう。</p> <p>○範唱を聴きながら、声部の役割について確認する。</p> <p>○ソプラノ、アルト、男声のパートに分かれて、音程を確認しながら歌う。</p> <p>○強弱やテクスチュアの特徴をワークシートに記入して発表する。</p> <p>☆コラボノートに強弱やテクスチュアについてまとめる。（歌詞カード）</p>	↓		↓	
追求する	2	<p>●反復や変化などの構成を理解できるようにする。</p> <p>○ソプラノ、アルト、男声のパートに分かれて、範唱を聴きながら歌う。</p> <p>○反復や変化が起きている部分を探す。</p> <p>☆曲の雰囲気が変わるところを見つけて、コラボノートの歌詞カードに場面ごとに色分けをする。</p>	○			↓ ◇曲想と音楽の構造や歌詞との関わりについて理解している。<コラボノート（知①）〔記〕>
	3	<p>●各声部が正しい音程で歌唱できるようにする。</p> <p>○ソプラノ、アルト、男声のパートに分かれて、範唱を聴きながら歌う。</p> <p>☆個人でタブレットを使用して、音程が分からないところを聴き直す。</p> <p>○歌詞の内容を手掛かりに、表現したいイメージを膨らませる。</p> <p>○三部合唱を録音する。</p>			↓	
	4	<p>●強弱、テクスチュア、構成と関連付けながら協働的に音楽表現を探る活動を通して、思いや意図を基に音楽表現を創意工夫することができるようにする。</p> <p>○三つの楽節をそれぞれ歌い、曲調が変化していることを知る。</p> <p>○一つ目の場面について、他の場面と比</p>		↓	↓	

	<p>べた際の特徴を見付ける。</p> <p>○13小節目～20小節目までのテクスチュアを確認する。</p> <p>○どのように歌うかを話し合う。</p> <p>☆どのように歌うかについての自分の考えや、特に音楽表現を創意工夫するポイントをコラボノートに書き込む。</p>			
5	<p>●強弱、テクスチュア、構成と関連付けながら協働的に音楽表現を探る活動を通して、思いや意図を基に音楽表現を創意工夫することができるようにする。</p> <p>○二つ目の場面について、他の場面と比べた際の特徴を見付ける。</p> <p>○21小節目～25小節目までのテクスチュアを確認する。</p> <p>○どのように歌うかを話し合う。</p> <p>☆どのように歌うかについての自分の考えや、特に音楽表現を創意工夫するポイントをコラボノートに書き込む。</p>		↓	↓
6	<p>●強弱、テクスチュア、構成と関連付けながら協働的に音楽表現を探る活動を通して、思いや意図を基に音楽表現を創意工夫することができるようにする。</p>			
本時	<p>[本時の学習課題] (めあて)</p> <p>三つ目の場面の歌唱表現を創意工夫しよう。</p>			
	<p>○三つ目の場面について、他の場面と比べた際の特徴を見付ける。</p> <p>○26小節目～33小節目までのテクスチュアを確認する。</p> <p>○どのように歌うかを話し合う。</p> <p>☆どのように歌うかについての自分の考えや、特に音楽表現を創意工夫するポイントをコラボノートに書き込む。</p>		↓	↓
7	<p>●強弱、テクスチュア、構成と関連付けながら協働的に音楽表現を探る活動を通して、思いや意図を基に音楽表現を創意工夫することができるようにする。</p> <p>○女声二重唱になる部分のテクスチュアを確認する。</p> <p>○「みんなみんな」が歌詞に出てくる場面に着目して音楽表現の工夫を考え</p>	○		↓
				<p>◇強弱、テクスチュア、構成を知し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じしながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。<コラボノート・観察(思①) [記]></p>

		<p>る。</p> <p>○どのように歌うかを話し合う。</p> <p>☆どのように歌うかについての自分の考えや、特に音楽表現を創意工夫するポイントをコラボノートに書き込む。</p>			
まとめ	8	<p>●創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら、歌唱表現をまとめることができるようにする。</p> <p>○歌唱しているところを録画し、鑑賞する。</p> <p>☆改善点をコラボノートに記入して意見を共有する。</p> <p>○改善点に対しての解決策を歌唱で試しながら探す。</p> <p>○これまでの学習を生かして、学級全体で歌う。</p> <p>☆音楽表現を工夫して分かったことや、歌うときに大切なポイントについてコラボノートに記入する。</p>	○	○	<p>◇創意工夫を生かした音楽表現をするために、全体の響きや各声部の声を聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付け、歌唱で表している。＜観察（知②）〔記〕＞</p> <p>◇強弱、テクスチャ、構成が表す情景や曲の味わいに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。＜録画・観察・コラボノート（態①）〔記〕＞</p>

8 本時の展開（6/8時間目）

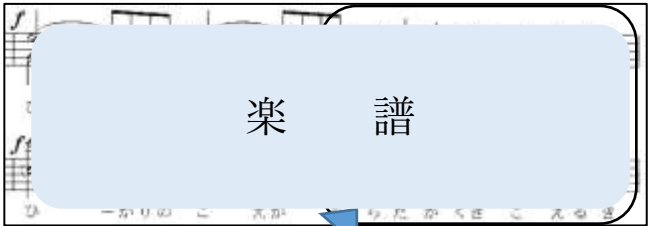
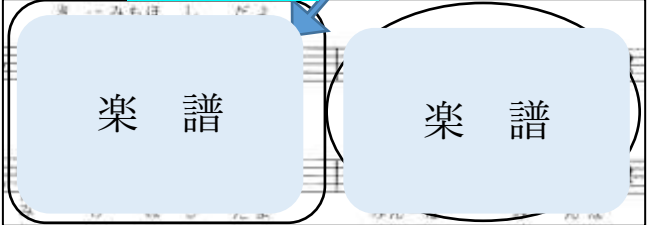
(1) ねらい

強弱、テクスチャ、構成と関連付けながら協働的に音楽表現を探る活動を通して、思いや意図を基に音楽表現を創意工夫することができるようにする。

(2) 準備

教師用タブレット、教科書、生徒用タブレット、モニター、ホワイトボード、ピアノ

(3) 展開

時間	<p>○学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・想定する生徒の意識 ☆ ICT活用 	<p>◎研究上の手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ○指導上の留意点 ●努力を要する生徒への支援 ◇評価項目<方法（観点）>
導入 5分	<p>1 本時のめあてに関心や期待、必要感をもって理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○30小節目までを歌唱する。 ・前は25小節目まで音楽表現の工夫を考えたな。 ・26小節目からは工夫がない。 ○本時のめあてを設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>[本時の学習課題]（めあて） 三つ目の場面の歌唱表現を創意工夫しよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・この曲のサビになる部分だからしっかりと表現を考えていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習に関心をもつことができるよう、めあてを生徒の意見から設定する。 <p>三つ目の場面（26小節目～）</p> 
展開 ① 10分	<p>2 思いや意図に合った表現にするために、強弱、テクスチャ、構成と関連付けながら音楽表現を探る。（個人）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○三つ目の場面は他の場面と比べてどのような特徴があるのかを考える。 ・ f の記号があるから強い場面。 ・音が高くて華やか。元気。 ○26小節目～33小節目までの強弱とテクスチャを確認する。 ○強弱、テクスチャをもとに創意工夫する箇所をコラボノートに書き込む（☆）。 	 <ul style="list-style-type: none"> ○28, 29小節目はリズムが合っているのに対して30小節目はリズムがずれていることを確認する。 ○ f 以降は強弱の変化が楽譜に書いていないことを確認し、「みんなみんな」の強弱変化について考えるように促す。 ●強弱の変化にのみ着目し、どのように音楽表現を創意工夫するか考えさせる。
展開 ② 10分	<p>3 思いや意図に合った表現にするために、強弱、テクスチャ、構成と関連付けながら音楽表現を探る。（グループワーク）</p>	<p>◎他者と協働して主体的に音楽表現を創意工夫できるように。強弱、テクスチャ、構成などを根拠にして音楽表現を創意工夫するところへ書き込みを入れ、クラウド上で意見を共有する。</p>

分	<p>○どのように歌うかについての考えや、音楽表現を創意工夫するポイントを7人班で話し合う。</p> <p>○コラボノートで画面を共有して強弱、テクスチャ・構成をもとに創意工夫する箇所書き込みを入れる(☆)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テクスチャが重なっているから、みんなで気持ちを一つにして歌いたい。 ・テクスチャがずれているから、各パートではっきり歌い、リズムの違いを表現したい。 ・「みんなみんな」はフレーズの終わりだから、優しい感じを出したい。 	<p>○歌い方の工夫を感じ取れるよう、出された意見を実際に歌い試してどのような工夫をするのか感じ取れるようにする。</p> <p>○ソプラノ2人、アルト2人、男声2～3人の班を組むことで、曲想やパートの役割に着目できるようにする。</p> <p>●強弱の変化にのみ着目し、どのように音楽表現を創意工夫するか考えさせる。</p> <p>◇強弱、テクスチャ、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。<コラボノート(思①)></p>
展開③ 10分	<p>4 思いや意図に合った表現にするために、音楽を形づくっている要素と関連付けながら表現を探る。(全体)</p> <p>○意見を全体で共有する。</p> <p>○コラボノートを用いてまとめる(☆)。</p> <p>○歌唱して音楽表現の工夫を試す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テクスチャが重なっているから、ハーモニーを感じながら、「光の音が空高く聞こえる」をはつらつと歌いたい。 ・「君も星だよ」はテクスチャがずれていることで、いろいろな声で呼びかけられている感じがするから、各パートの入りをしっかり歌いたい。 ・「みんなみんな」は優しい感じを出してデクレシェンドで歌いたい。 	<p>○全体の意見がまとまるよう、ファシリテーションをする。</p> <p>○歌い方の工夫を感じ取れるよう、出された意見を実際に歌い試してどのような工夫をするのか感じ取れるようにする。</p>
まとめ 15分	<p>5 学習のまとめをし、学びを振り返る。</p> <p>○これまでの学習を生かして、合唱する。</p> <p>○録音を聴く(☆)。</p> <p>○振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽表現を創意工夫すると、合唱する楽しさが深まる。 ・テクスチャやパートの役割が分かったことで自分の声量のバランスが分かったから、次の時間も工夫できるポイントを見つけていきたい。 	<p>◎表現を工夫する楽しさを感じ得られるよう、録音を行い自分たちの思いや意図にふさわしい音楽表現になっているかを振り返る。</p> <p>○次の時間に試したいことや本時の学びを振り返ることができるよう、表現を工夫して分かったことや歌うときに大切なポイントについてコラボノートに振り返りを記入する。</p>

(4) 板書計画 ICT活用の際の画面

三つ目の場面（練習記号D）

一番盛り上がる場面。
華やかな感じ。

強弱 **f**

()は高い声が出ない人のみ。

きーみもほしーだよ

この強弱を考えよう。

楽譜

楽譜

音がみんなで重なる 男声のアウフタクトから始まり、
リズムが各パートでばらける。